

2. 都道府県における強度行動障害支援者養成研修の実施状況と課題を調査

(1) 主催者へのアンケートの回答内容

佐賀県、愛知県、新潟県、山梨県における研修主催者へのアンケートの回答内容は以下の通りであった。(自由記述は感想のみや重複する内容は省略した。また、明らかな誤字脱字は修正した。)

①研修内容に関する満足度

大変満足	2	まあ満足	3	普通	1	やや不満	0	大変不満	0
------	---	------	---	----	---	------	---	------	---

- ・強度行動障害に関する基本的な知識の獲得するには極めて優れた研修内容だと思います。
- ・医療のコマは「実践」に回すべき。制度のコマも実践で良いのではないかと。
- ・「基礎」にはこれから使用する用語（構造化や視覚支援など）の解説がないと理解ができない受講生もいるので配慮が必要。
- ・演習で使用するシート類（紙）が多く、分かり難さが多々ありました。(受講生、講師側共) (実践研修)
- ・地域で実施するには、講師側の研鑽、内容の再検討は必要かと思えます。(実践研修)
- ・今回はサビ管クラスの参加で、基礎と実践をセットで行いました。参加者アンケートではとても理解できた47%、理解できた49%で講義、内容ともにとても満足度の高い研修でした。特に、講義と演習が交互にあるので理解しやすく職場に帰って生かしたいという声を沢山いただきました。内容とすれば基本がしっかりわかり易く押さえられており良くできたプログラムだと思います。
- ・研修のプログラムについて、障害に関する体験の演習を初日の午前中に行ったが、ある程度講義部分で発達障害に関する特性や基礎知識を習得した後の方がより効果が出るように思う。

②研修のレベルについて

高すぎる	1	やや高い	5	やや低い		低すぎる	
------	---	------	---	------	--	------	--

- ・特に基礎研修ではレベルが高すぎると感じています。「手順書を読むことができる」レベルを逸脱する要求の高さがあります。想定する受講生が「初めて行動障害や自閉症の支援に携わる」ことを想定しているのであれば、「構造化」「視覚支援」といった言葉にも触れたことがない者が受講すると思いますが、講師陣はそれを「知っている」ことを前提として講義を行うので、知識レベルの前提をより低く設定したものであるという説明を講師にお願いする必要があります。
- ・講義・演習ともとても内容のある研修だと感じています。ただ、その良さを受講者の皆さんに伝えきれなかったかもしれない力不足を反省しているところです。何を感じ、受け取り、学んでもらうか、講師側の力量にも大きく左右される部分があり、難しい。
- ・受講者によって内容の理解へのばらつきは出るかと思いますが、講義の内容によっては時間が足りないと感じるコマもありました。受講者の中からも、駆け足で分かり辛かったという感想もありました。個人の知識や経験、所属している事業所によって研修レベルの難易度は変わるように思います。2日間で基礎研修の内容を理解しよう（してもらおう）と思うと、難易度はやや高いかな、と思います。(基礎研修)
- ・特に、支援者への指導に当たる立場の従事者が理解してほしい内容だと思います。受講対象をある程度絞った研修にすることで、レベル的には妥当なのではないでしょうか。新入職員として基礎研修を受け、そのまますぐに実践研修を受けるスケジュール構成だとすると、レベルは高めの設定になっていると思います。(実践研修)
- ・演習は翌日からの支援にすぐ役立つ事が出来る内容になっていますが、古い体質の施設に所属する職員ほど、内容理解に至るには難しい内容なのかもしれないと感じました。
- ・当初、導入や研修の目的が上手く伝えられないと、実践の演習まで内容の理解が追い付かない参加者が出る心配があったのですが、研修内容のステップの作り方が良く出来ていたので、解らなかったという方が一人も出ずレベルも丁度よい研修だったと思います。フォローアップ事例検討など、今後につながる研修の機会があるとより理解が深まり支援の手法も広がっていくと思います。
- ・実践研修の予防モデル、行動障害対応モデルに関しては、難しかったと答える方々もいらっしやうが、支援手順書作成のための時間を出来るだけとった事が功を奏し、ほとんどの班が完成する事ができた
- ・基本的には良く分かったとの評価を頂いている。*予防モデルでは、場面③④だけに集中して行なった
- ・行動障害のある方と接する現場での実践経験が多少ある方にとっては、ピンとくるところもあるかと思うが、未経験の方にと

っては、ご存じないであろう用語も多々あったかと思う。テキストの中では丁寧に説明されている部分が多くあると思うが、研修における講義部分では、説明が十分ではない部分があったように思う。今回の研修に関しては、未経験者対象というより、1~2年目支援者対象という印象が残った。

③講師陣の確保について

かなり難しい	1	やや難しい	3	やや簡単	2	とても簡単	
--------	---	-------	---	------	---	-------	--

- ・医師の確保は困難を極めました。
- ・準備期間が短かったため、講師の方のスケジュール確保が難しかったです。ゆとりを持った研修計画を進められればスケジュール調整もやり易くなると考えています。
- ・外部講師の皆さんの日程を合わせる事が、やはり難しいです。みなさん忙しい中で時間を調整していただく事が心苦しくもありました。研修日程を早めに決める事で、協力いただきたい講師の方への依頼もスムーズになると思います。講師をお願いしたい方はみなさん忙しい、率直に難しいです。
- ・心配された医療関係者の講師も県立病院の協力が得られ、県内の関係者で研修の実施が出来ました。
- ・外部講師は精神科医とカウンセラーさんに協力を依頼した（内部講師陣のコネクションで依頼した）
- ・家族の想いでは保護者さんの選考に時間がない中で何とか確保したが、複数人お願いできる方を確保する必要性を感じている。

④インストラクターの確保について

かなり難しい		やや難しい	2	やや簡単	4	とても簡単	
--------	--	-------	---	------	---	-------	--

- ・自閉症支援をしている若手を中心に集めました。今後の講師候補、という意味でも集めやすかったです。講師のモチベーションは高く良い研修ができました。
- ・人材は多い地域だと思いますが、2日間の拘束となるため研修日程の組み方に工夫が必要となると思います。※土・日開催やPMのみ・AMのみの組み合わせ等。
- ・講師とインストラクターを兼ねる形になりました。インストラクターとして別途配置は難しかったです。今後、広い圏域で研修を行うとすると、各地域で推薦してもらっての実施がスムーズなのだと思います。研修参加者と兼ねる方法が現実的です。
- ・実行委員会メンバー中心に講師とインストラクターを行ったので各グループごとに同じ人を配置ができスムーズな研修運営が出来ました。
- ・インストラクターであれば指導者養成研修を受けたものでなくてよいので集め易いと思われるが、年複数回実施していく事を想定すると、協力事業所の負担が大きく、仕組みづくりが必要と感じられる。

⑤資料の準備について

かなり大変	2	やや大変	3	簡単		とても簡単	
-------	---	------	---	----	--	-------	--

- ・演習の準備の道具の用意に手間とコストがかなりかかります。またテキスト以外のパワーポイントの資料の印刷のボリュームが多く、準備はかなり大変でした。（ただ、どの研修でもある共通の大変さだとも思います。）
- ・修正などで資料に変更があり、新旧資料のどれを使うか整理が必要で少し煩雑になりましたが、通常決まった資料の使用となればもっとスムーズに準備が出来ると思います。実務的な作業は、どうしても負担が特定の人に集中してしまいます。
- ・必要な配布資料に関してはネットワークの指導者研修の資料を使用させていただきました。講師によってはテキストの内容に沿って配布資料の用意をしていただきました。6名がネットワークの指導者研修を受けていたので、資料の準備に関しては映像も含め大きな混乱はありませんでした。
- ・頂いたパワーポイントはほぼ教科書どおりのため、全部は配布しなかったが、全部配布するとなるとかなり大変となる
- ・今回は外部講師の資料以外は基本的には配布しなかったが、それに対する受講者さんからの要望も確認はされていない
- ・初回は大変だったが、2回目以降は事務局で一括印刷できると想定される為、負担も少なくなりそうである
- ・テキストがあるにしては、用意する資料の数はやや多かったように思う。

⑥演習の準備について

かなり大変		やや大変	4	簡単	2	とても簡単	
-------	--	------	---	----	---	-------	--

- ・特別な準備は無く演習を行った印象です。当日、使用するシート（資料）の配布のタイミングや説明が上手くいかなかった反省があります。配布資料が多いです。
- ・自立課題の内容や活用のシートなどを事前に頂いていたため準備は大きな混乱はありませんでした。また、事前に受け持ちチームごとに演習の流れの体験と検討は行いました。
- ・自立課題の物品購入・準備は一日がかりとなる。（100均巡り）
- ・実践研修の演習の資料は複雑な為、前日の準備が重要となった。（前日の研修終了後にシュミレーションを皆で行なった）
- ・余裕をもって演習を行う為にも、会場の広さには余裕が必要である。（特に基礎研修初日）
- ・最も大変さを感じるのは、自立支援課題の作成。用意する物品の数も多いが、使いまわしはしにくい。この演習に関しては、受講者の知識・経験の差が特に出過ぎる感があり、ほとんど参加できていない受講者もいた。
- ・実践研修については、事前に運営委員会において模擬演習や内容の検討を行ったため、当日の進行はスムーズだったが、事前の準備は大変だった。（特に資料の修正が多かったため）

⑦その他の準備について

かなり大変	1	やや大変	2	簡単	1	とても簡単	
-------	---	------	---	----	---	-------	--

- ・事前準備、全体打合せの時間があまり取れませんでした。愛知県としての開催だったことで、講師のみなさんの地域もばらばらになり、打合せ場所が遠いことも課題でした。（仕事が終わってから駆けつけてくれていました。）
- ・初回の研修の準備は大変に感じましたが、流れの確認を丁寧に行うことで、なんとか趣旨に沿った研修になったと思います。繰り返して研修を行っていくことで質の担保はできていくかと思います。
- ・準備期間が実質1ヶ月ほどしかなかった為、大変であった。
- ・全県一区、サービス提供事業所の共同開催となったため、圏域ごとに3つのグループをつくり、研修全体を割り振り分担制で実施した。
- ・2回目以降は負担もかなり減るのではと想像できる。
- ・全国ネットの指導者研修やテキストに用意すべき物品や手順の説明が多く盛り込まれていたため、用意で窮するようなことは無かった。

⑧当日の運営について

かなり大変		やや大変	4	簡単	1	とても簡単	
-------	--	------	---	----	---	-------	--

- ・はじまってしまえば、楽です。会場の開場時間の関係もあり、受付がやや大変でした。
- ・イメージを講師の中で共有できていなかったため、研修全体の流れがごちなかったように思います。運営は県担当者がスムーズに行ってくださったと思います。
- ・1回の研修の受講者を60名から70名くらいに抑えると大きな混乱なく対応できると思いました。事前準備は丁寧に行う必要は感じています。
- ・準備期間が短かった事も有り、会場がばらばらになってしまい、毎日の準備が大変であった。
- ・同じ会場を連日抑えることができ、前日の夜に会場準備が出来て、夜間帯まで会場を借り席等を保存できる体制であれば負担はかなり軽減される。
- ・演習で使用する資料がかなり多い（実践研修）為、煩雑にならないように準備が必要。
- ・班構成にある程度配慮しないと、班によって力量に差が生じ、支援助順書の作成まで至らない可能性がある。（実践研修）
- ・実際に研修を開催してみて、取り決めをしっかりとっておくべき点が見つかった（受講者の遅刻・早退・受講態度等の取り扱いなど）。

⑨後片づけ・事後処理について

かなり大変	1	やや大変	2	簡単	2	とても簡単	
-------	---	------	---	----	---	-------	--

- ・演習の後の、自立課題の残骸（？）の処理が大変でした。ゴミを分別するように事前にインフォメーションするなどの工夫が必要だと思いました。

- ・会場の片づけなどは、受講生のみなさんにも手伝っていただけてスムーズだったと思います。
- ・研修参加者のアンケート集約や報告書類等、研修後の事務処理も多くあった事と思いますが、県担当者の方に大きな負担があったのではないかと思います。
- ・事務局を作ったので研修運営だったので事務処理チームがあったことで、企画チームと分担ができ良かったと思っております。
- ・自立課題等は使い切らずに次回に再利用する物が多い為、保存しておく場所が必要となる。
- ・演習で作成した自立課題をどうするのかまだ決められていません。
- ・特に大きな負担は無かった。運営委員会、事務局を担った法人内で十分に連携、対応できた。

⑩この研修で強度行動障害のある人への支援が広がると思いますか？

思う	2	少し思う	3	あまり思わない		思わない	
----	---	------	---	---------	--	------	--

- ・これまで行動援護でしか行動障害の方の研修が位置付けられていませんでしたが、全分野を対象とした研修に展開されたのは歓迎すべき点です。通所、訪問、居住系といった分野にまたがったの共通言語ができたことは非常に大きいと思います。
- ・難しい支援だと思っていたことを、挑戦してみよう！と背中を押してくれる研修になっていると思います。
- ・行動を障がいのせいや、本人のせいとして対応している場面を見聞きすることが多くあります。この研修で支援の視点が変わっていくことを期待しています。
- ・行動障害の捉え方の基礎的な理解と、手順書の作成まで一連の流れを学べるので参加者が集中して研修を受けてる様子が伺え良い機会になると思います。今後、事例研修や職場内での伝達研修などを行いたいと話している参加者もいました。
- ・アンケートからは、現場の支援に活かしたいという意見が多く有りました。
- ・行動障害を持つ方は、困った人ではなく困っている人なんだというフレーズを何度も使わせていただき、浸透したように感じます。
- ・数年の経験がある受講生の方に関しては、ベースとなる知識はある程度あったように感じた。この研修を通してその知識や見解をより深められたのではないかとと思うが、事業所に持ち帰った後、周知・共有して下さることを期待する。

⑪この研修で強度行動障害のある人の地域生活が実現するとと思いますか？

思う	2	少し思う	3	あまり思わない		思わない	
----	---	------	---	---------	--	------	--

- ・この研修を受講する人たちは多くは常勤職員ですが、パートや非常勤職員の参加はなかなか難しいと感じました。ただ、多くの場合にパート系の職員の力をかりねば現場が回らない現状です。さらに、現場での不適切な行為は現場の対応で起きているわけで、実はパニックや粗暴行為の引き金になっているのは研修を受けない、あるいは経験のないパート・非常勤系の職員になっていることも事実です。今後はこうした研修を非常勤レベルに（GHの世話人や通所施設の生活支援員補助）どのように受講してもらうかがキーポイントのように思います。
- ・多くの人が研修を受ける事で理解は広がるだろうと感じますが、研修だけでは難しいと思います。受講者が研修で学んだことを事業所内でどのように活かしているか、フォローアップを継続して行う仕組みが必要だと感じます。
支援者のやる気やプロ意識に繋げる事が、地域生活の実現には必要不可欠だと思います。社会的な評価、処遇改善等、併せて必要な要素が多くありそうです。
- ・事業所や支援者だけの頑張りではなく、地域全体で取り組みたい事もあります。
- ・行動援護の研修が今までなかったので実践研修の参加者を広く募りたいと思っております。やはり支援手順書作りまでを出来る人材の育成を行っていききたいと思います。
- ・研修終了者のフォローアップ研修を企画し、実際作成した支援手順書を確認しあったり、実践発表をしてもらったりしていくことが重要であると感じています（加算のためにとりあえず・・・とならないように）
- ・他事業所の実践が実際に見られる事はとても大きな効果を生むと思います（とても刺激になる）
- ・演習がとにかく分かり易かったと評価してもらっています
- ・これまで行動障害が激しくなってしまった方に対しては、入所や入院しかないといったイメージを払拭できるだけの実践報告を多くの事業所と関わりながら実現していきたい。

3. 強度行動障害支援者養成研修のインストラクターによる評価とその分析

(1) プログラム評価会の内容

指導者研修講師によるプログラム評価会の主な意見は以下の通りであった。

(発言要旨を記載。)

會田千重

(肥前精神医療センター)

医師側の寄って立つ医療機関の機能の違いや、どこの医療機関の人が話すかに寄って、強度行動障害の対応のできる守備範囲や見方が違ってくる。誰が誰に向けて話すのか、どういう立場の精神科医なり児童精神科医が、どのくらいのレベルの人に向けて話をしたらいいのかということが、どちらも変動して難しいというのが印象。

井上雅彦

(鳥取大学)

基礎研修で到達しなければいけないのはどこか、境目がよくわからないという印象がある。

例えば、医療との連携については基礎研修にいいのかという気がする。薬物療法がどうのということは実践研修の方でしっかりやっていく内容ではないかと思う。基礎研修では、もう少しベーシックな、支援の構造と環境をどう現場で組み立てるのかみたいなことや、チームでやろうと言う時に協力体制が非常に大事だとか、そういうことが必要ではないか。この研修はやりながら制度が出来てきたので、基礎研修を作っている段階で実践研修があるとはあまり聞かなかった。最初から基礎と実践があるということで作っていないので、基礎研修に入れないといけないものはみんな入れたという感じなので整理は必要。

そのうえで、基礎研修があり、実践研修があって、その上にサビ管と広域コーディネーターみたいな四層構造が描かれていたと思うが、強度行動障害と言っても、試算的には6千人ぐらいで、知的障害のある方の中の5%とか入所者の10%とか、そのような昔のデータがあるが、ちょっとやそつとで上手く行かない人達に対してどうするかというプログラムはもう少し上の方の研修でやるべきだろう。強度行動障害支援者養成研修の上の研修をどう作っていくかということも考えていけないといけない。

もう一段階上のレベルの人達を育てていかない

と、やはり依然としてある一定以上の行動障害のある方は、病院では拘束だけになってしまうし、施設では利用拒否されるという事態が出てくる。強度行動障害といっても、今非常に概念が広がっているので、本当にシビアな人と、基本的な対応をすれば普通に過ごせる人達と分けて考える必要がある。

将来的には行動障害の方にかかるタスクリストみたいなものを作って、初任者が絶対受けてなければならぬ項目と、例えば行動援護をやる人には、もう少し家族の中のアセスメントや、家族がちょっと虐待の疑いがあるような状態になったときにどのように連携したり繋いだりするかという項目も必要です。それぞれの支援場面に何のオプションがあるのかということを整理していくべき。

大友愛美

(ノーマライゼーションサポートセンターこころりんく東川)

四日間の整合性や、四日間通して伝えなければいけないポイントは何かということを理解してからそれぞれの講義をする必要がある。キーワード的なものをいくつか作って、全部の中でこのことに関してだけは必ず忘れないで持ち帰ってくださいね、ということが必要。

全体に関しては、分かりやすく色んな内容が盛り込まれていて良いと思う。ただ、井上先生の講義の内容がないと、全体として本当に伝えたい部分をなかなか理解してもらうことが難しいのではないか。改善するポイントとしては、講義や演習の前後の繋がりとか、それぞれの講義、演習でやったことが、別のところではここに繋がっていて活かすというような、そういう整理はもう少し必要。

この研修はいろいろな動機で受講される人が多い。行動援護のヘルパーではやはり外出支援をする時の技術が少し少ないと思うかもしれない。現場が違うとだいぶ違ってくる場所があるので、どこにポイントを絞るかなど実施する時の工夫が必要。やはり制度と研修がセットになっている矛盾は大きい。行動援護ヘルパーは居宅でのアセスメントができないといけないので、そのためにはこの研修で相当なことを教えなければならない。一方で、初任の職員が受ける研修としても作っていかなければならないので、同じ研修のなかで、ベテランを作ることを目的としたり、行動障

害のある人と会ったこともない人にこういう障害の人がいるということを知ってもらうことを目的とするということで誰にターゲットを絞ったらいいかかわからない。

やはりこの研修だけで全部を伝えるのは難しいので、フォローアップのような研修体制、体系を考えないといけないように思う。

片桐公彦

(みんなでいきる)

制度的な傾向で言うと、今は加算の要件となったことでベテランの職員も加算のために研修を受けている状況。その人たちにとっては「そんなこと知っている」となる。しかし、加算の要件になって3年後には本当の初任のような職員が受けにくることになるだろう。また、皆さんが言われるように井上先生のアセスメントの講義は厚労省のカリキュラムから抜けているので、これは3年後をめがけて変えていかないといけないのではないか。

神田 宏

(横浜やまびこの里)

内容的には、基本的にABAと言われる行動を分析する方法と、制度的に支援手順書を作らなければいけない、その二つを合体させるのが非常に困難だった。もちろん時間もタイトなのでそこが非常に厳しいように思う。ただ、内容としてはやはりABAの部分はきちんと伝えなければいけないと思うので、井上先生の講義のようにわかりやすい講義が前提にあって、それから演習があるという二階建ての構造がいい。更に、研修で仕組みは分かったが実際にはどうしたらいいのか、シートがあって埋めればいいのかは分かるが、現場で非常に困っているのでコンサルテーションのような仕組みを制度として取り入れてほしいという声もあるので、フォローアップ研修と地域生活支援拠点みたいなものを組み合わせて、なんらかのOJTのような仕組みができてくれば、今回のような研修も非常に役に立つだろう。もうちょっと構造化してあげて分かりやすくしたほうがいい。基礎で伝える部分、実践で伝える部分、フォローアップで伝える部分をきちんと構造化して徐々にスキルアップする仕組みがあればいいと思う。そういう意味では、今回の実践研修のABAの演習部分は無理に実践研修で実施している感じでも

あり少し難しくなってしまうようにも思う。実践研修では大友さんの予防的な措置で、表出される前にこういう支援をしっかりと組立てようということでも終わりでいいかもしれない。

坂井 聡

(香川大学)

演習の雰囲気を見せてもらったが、あのような演習があると、実際聞いただけでなく持って帰ることが出来るのでいい内容だったと思う。

この内容を、学校に何とか広められないかということ強く思っている。行動障害のある人たちを学校がシステムチックに作り出している現実があるんじゃないかなと少し思っている。本当はそこまで行かなくて済んだはずなのに、就学している時期に対応がきちとなされなかったために、福祉の方で苦労しないといけない現実があり、この様なプログラムが出来上がっているとすると、この研修は厚労省の分野だが、文科省にまで広げて特別支援学校なんかにも広げることができれば、拘束をしないといけないような状況というのも若干減ってくるんじゃないかなと思っている。

行動障害に特化した福祉のファイブデイズ研修のような研修もいいかもしれない。皆さんが事例を持ち寄ってやるような内容もあっていい。更に実践事例紹介のセミナーのような発表する場などもあればいいように思う。

末安民生

(日本精神科看護協会)

私は支援者側の人たちをどうバックアップするかという立場でこのプログラムに参加しているわけだが、これまで支援者のメンタル的なケアの話をしてきて、支援が上手く行っていない時に自分のメンタルなことを考えるなんてとんでもない、というかそういう余裕すらないんです、という意見があった。この研修を受けて自分でいろいろと計画を立てたり、プログラム作ったり、自分が知識や技術を身につけていくことと同時に、人に関わることによって自分の中に起こってくる変化など、自分のメンタル的な視点でも見ていくことができるようになったらいいと思う。

精神科の方でも、隔離や身体拘束が増えていることに対して深刻な状況だと認識していて、どうプログラムを作るかという問題意識があり、今回の研修にもスタッフが参加して勉強させても

らっているので、共同でできることがあるように思う。日本では精神科の看護師として十万人ぐらいの人が働いているので、その人たちのなかに、皆さんがやってこられたことと我々との共通点とか、我々がやってなかったこと、気づいてなかったことについて、共有化できたらいいと思っている。

園山繁樹

(筑波大学)

この研修は特定のテーマとかじゃなくて、網羅的だということところがとても良いと思う。四日間あれば、いろいろと多面的に情報収集ができ、演習でそれを使ってみたり考えてみるができる。

研修のなかに参加者から一事例ほど募って公開で事例検討会のようなことをすると、事例検討の仕方のモデルとなり、それぞれのところで事例検討をすることができる。事例検討をすることは、一対一のスーパービジョンと違い、自分が困っていることをみんなで一緒に考えてもらうという場にもなり、また職員皆で共有して考えるという場にもなり、意味がある。

また、ベストプラクティスと思われる地域を二つぐらい取り上げて紹介してもらっても良い。以前はこんな事で困っていたけれど、みんなで考えてこういうふうにするようにしたらうまく回るようになったとか、そういうちょっとしたことでもいいし、あるいは市とか街全体で強度行動障害についてこういう取り組みをしたということや、体制づくりをしてるとか、でも良い。

田中正博

(全国手をつなぐ育成会連合会)

全国ネットのほうの後発な分、基礎研修と実践研修の住み分けが上手にいつてる。この研修は基礎研修から作ってしまったので、基礎研修に行動援護研修のエッセンスをかなり盛り込んでしまい、基礎で知るにはちょっとハードルが高い項目があるので、今回全国ネットで作ったものをベースに少し組み換えをした方がいいのではないかと。カリキュラムの基礎で用いるもの、実践で用いるものの入れ替えをした方がいいかもしれない。その上で、基礎研修は支援者になりたての人が覚えることということなので、サービスの対象者に出会っていないことも含めて、この研修を受けることでイ

メージが膨らむという位置づけだと考えると、もう少し内容が易しくしてもいいのではないかと。分かりにくい部分に関しては映像などを駆使してイメージを膨らましてもらうことが大事だと思う。全体の流れとしては、組み立てやすく置き換えた部分で国の要項も見直せば、もっと易くなる部分もあるかなと思う。

実践研修のレベルとしては、この研修の後にサビ管があるという位置づけなので、基礎研修、実践研修、サービス管理責任者、そして、サビ管の人たちの手前に相談支援専門員も位置づけられているので、今の実践研修の内容ではやはり難しさを感じるように思うが、実践研修のレベルを落とすと、今度はサビ管のところで行動障害への支援の要素をどこまで取り入れるかということも検討してもらわないといけない。

行動援護のサービス提供責任者研修として、手順書やちょっと深い難しい人への支援など、もう一ランク必要ではないかと思うが、それを入れ替えるなら早いうちに入れ替えた方がいい。

今度の総合支援法の三年後の見直しの中で、重度訪問介護以上の人が入院した場合にはヘルパーが付くことができるようになるが、そうすると、院内での対応ということもかなり意識して末安さんたちとの共同で提案していくようなことより必要になってくる。その位置づけの中では、研修のありかたも院内を意識した対応についても絶対に求められるようになる。

肥後祥治

(鹿児島大学)

全国ネットのプログラムの特徴は「人を見ましよう」というところがとても明確なところ。「(本人は) どういうことに困っていますか。」というところの問題意識が非常に明確になっている。ただ、必要な知識として提供することと、実際にそれ運用していくためのプログラムという二段構えにしないと、やっぱり使えないのかもしれない。基礎研修はやはり環境調整と関わり方がメインでいいと思う。環境とのやり取りの中で人は変わるところは入れていく必要はある。

研修全体としては非常に網羅的になっているが、もうちょっと階層化したりしていかないとごちゃごちゃしている。今の研修の上のほうに組んでいくのか、研修の最初の方を組み直すのかということところはまた議論が別れるかもしれない。

D. 考察

1. 再検討したプログラムにおける受講者へのアンケートの結果より

(基礎研修)

「各講義・演習」

研修の総合評価である理解度は、佐賀研修では初日 3.9pt、2 日目 4.0pt、また愛知研修では初日 4.2pt、2 日目 4.3pt となっており、総じて高い理解度を示している。特に愛知の 4.3pt は特筆すべき理解度の高さである。科目別に見た場合、佐賀では、「(講義) そのとき、あなたはどうしますか～障害者虐待、身体拘束、行動制限の防止は支援の向上から～(知識習得/スクール)」(4.1pt)、「(講義) ひとりで悩まないで～支援者ケアの大切さ～(知識習得/スクール)」(4.1pt) が高い評価を得ている。また愛知では、「(演習) 私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～(体験型演習/グループワーク)」(4.5pt)、「(演習) わかりにくいんです～伝わりにくさを体験しよう～(体験型演習/グループワーク)」(4.5pt)、「(講義) ひとりで悩まないで～支援者ケアの大切さ～(知識習得/スクール)」(4.5pt) が高い評価を得ている。

「研修内容」

研修内容別にみると、理解度が高かったのは佐賀では「事例紹介」(4.0pt)「体験型演習」(3.9pt)、愛知では「体験型演習」(4.4pt) であり、いずれも「体験型演習」による評価が高いことが特徴である。

「研修形式」

研修形式については、佐賀・愛知とも「グループワーク型」(3.8pt、4.3pt) となっており、いずれもグループワークで理解が深まることを示している。

「研修効果」

佐賀では実践意欲 3.5pt、内容伝達 3.6pt、また愛知では実践意欲 3.5pt、内容伝達 3.5pt と研修が何らかの行動変容に繋がる結果となっている。4 点満点の研修計測で 3.5pt というのは、非常に高い水準であり、一定以上の理解度促進から行動変容・伝達・行動にまでつながっているとと言える。

(実践研修)

「各講義・演習」

佐賀では初日 3.8pt、2 日目 3.8pt、愛知では 2 日間総合で 4.2pt と非常に高い理解度を示して

いる。科目別に見ると、佐賀では、「(講義) 家族の思い(事例紹介/スクール)」(4.2pt) が高い評価であり、愛知では、「行動障害のある人の暮らしを支えるために」「家族の思い」「行動障害のある人の生活と支援(外出場面)」「危機対応と虐待防止」(いずれも 4.4pt) となっている。

「研修内容」

研修内容別には大きな差異は見受けられない。

「研修形式」

研修形式別にも大きな差異は見受けられない。佐賀がやや「グループワーク」に対する理解度が高い(3.9pt) 程度である。

「研修効果」

佐賀では実践意欲 3.4pt、内容伝達 3.4pt、また愛知では実践意欲 3.6pt、内容伝達 3.6pt と研修が何らかの行動変容に繋がる結果となっている。4 点満点の研修計測で 3.6pt というのは、非常に高い水準であり、一定以上の理解度促進から行動変容・伝達・行動にまでつながっているとと言える。

2. 研修主催者へのアンケートの結果より

①研修内容に関する満足度

「大変満足」「満足」の割合が高く、「基本がしっかりわかり易く押さえられており良くできたプログラム」等という評価の一方で、「シート類が多く、分かり難さが多々ありました。」など研修への課題も散見された。

②研修のレベルについて

全て「高すぎる」「やや高い」となっており、研修のレベルが高いという認識であった。「基礎研修ではレベルが高すぎる」という意見に合わせて、「講師の力量にも大きく左右される」「個人の知識や経験、所属している事業所によって研修レベルの難易度は変わる」というように、講師や受講者の属性によって研修レベルの高低は変動するとの見方もあった。また、「フォローアップ事例検討など、今後につながる研修の機会があるとより理解が深まり支援の手法も広がっていく」とフォローアップの必要性を言及する意見もあった。

③講師の確保について

「かなり難しい」「やや難しい」「やや簡単」に分かれたが、「医師の確保は困難を極めました」「講師の方のスケジュール確保が難しかった」「講師をお願いしたい方は皆さん忙しい。率直に難しい」という意見の一方で、「研修日程を早め

に決めることで、協力いただきたい講師の方への依頼もスムーズになると思います」という意見もあった。

④インストラクターの確保について

「やや難しい」と「やや簡単」に分かれたが、「2日間の拘束となるため研修日程の組み方に工夫が必要」「年複数回実施していくことを想定すると、協力事業所の負担が大きく、仕組み作りが必要」などインストラクターの確保に課題を感じている一方で、「講師とインストラクターを兼ねる」「研修参加者と（インストラクターを）兼ねる」「実行委員会メンバー中心に講師とインストラクターを行う」などの方法で確保しているところもあった。

⑤資料の準備について

全て「かなり大変」「やや大変」となっており、資料の準備に対して負担が大きいことがうかがえた。

⑦演習の準備について

「やや大変」と「簡単」に分かれたが、特に自立課題の材料を揃えることが負担になっている一方で、演習の実施については「事前に運営委員会において模擬演習や内容の検討を行なったため、当日の進行はスムーズだった」など事前に模擬演習や打ち合わせをすることでスムーズに当日の演習が実施されることがうかがえた。

⑧当日の運営について

「やや大変」と「簡単」に分かれたが、会場の環境設定や事前の準備をしっかりと行うことによって当日の運営がスムーズに行くことがうかがえた。

⑨後片づけ・事後処理について

「かなり大変」「やや大変」「簡単」に分かれたが、演習における自立課題の後片づけが負担になっていることがうかがえた。

⑩この研修で強度行動障害のある人への支援が広がると思いますか？

全て「思う」「少し思う」となっており、この研修を通して強度行動障害のある人たちへの支援が広がるという認識であることがうかがえた。

⑪この研修で強度行動障害のある人の地域生活が実現すると思いますか？

全て「思う」「少し思う」となっており、この研修を通して強度行動障害のある人の地域生活が実現するという認識であることがうかがえた。ただし、「非常勤レベルに（GHの世話人や通所

施設の生活支援員補助）どのように受講してもらうかがキープポイント」「研修だけでは難しい（中略）フォローアップを継続して行う仕組みが必要」「研修修了者のフォローアップ研修を企画し、実際作成した支援手順書を確認しあったり、実践発表をしてもらったりしていくことが重要」などの更なる取り組みの必要性に対する意見が見受けられた。

3. プログラム評価会での意見より

プログラム評価会においては、主に以下の点がポイントとして挙げられた。

（1）研修全体の整合性やつながり

この研修を通じて受講者に伝えるポイント（必ず学んでもらいたい内容）を明確にして、そのうえで各講義・演習を行う必要がある。また、基礎研修から実践研修までの講義・演習の整合性や、それぞれの講義・演習の関係性をもっと明確にしたほうがよい。

（2）研修を充実させるための内容

アセスメントについての基礎的な説明やABAの基本的な考え方などについての講義を全体の研修の前提として取り入れた方がよい。また、事例検討をモデル的にやることにより、それぞれの現場で事例検討ができるようにしたり、好事例（ベストプラクティス）を取り上げて紹介することでそれぞれの地域での取り組みの参考としたりすることも良い。

（3）他分野との連携

教育分野においても本研修を実施できないか。また、精神障害の分野においても隔離や身体拘束を減らすために支援スキルを上げるためのプログラムが必要であり、本研修の内容を共有できないか。

（4）研修の位置づけ

本研修は本来、サービス管理責任者となる前提としての位置づけであり、行動援護従業者になるための要件でもある。また、基礎研修については重度訪問介護行動従業者養成研修行動障害支援課程と同内容となっている。また、本研修においては、基礎研修は支援手順書をもとに適切な支援ができるスキルの習得を目指されており、実践研修では適切な見立ての基に支援手順書を作ることができるスキルの習得が目指されている。

本研修が全分野を対象として位置付けられたことは非常に意義のあることであるが、支援場面によって必要なスキル、学ぶべきスキルが違うこ

ともあることを考えると、画一的な研修内容で全分野をカバーすることは難しく、初任者が必ず受ける基礎的な内容と支援場面に応じたオプション的な内容などを整理していく必要があるかもしれない。

また、行動援護には実務経験1年と基礎研修+実践研修の受講で従事できるので、入職後1年の職員が基礎研修と実践研修を受講することも十分考えられるが、居宅内のアセスメントを含めた内容の研修となればそれなりの内容を本研修で実施しなければならないが、基礎研修が初任者を含めた経験の浅い職員に対して行動障害のある人たちのことを知るための初歩的な役割も果たすことを考えると、研修内容の設定をどの程度にするかが非常に難しくなる。また、総合支援法の3年後の見直しの中で、重度訪問介護の利用者が入院した時には入院先でも重度訪問介護ヘルパーの支援を受けることができるようになる予定だが、病院内というイレギュラーな場所での支援に対して基礎研修を受講しただけで対応できるかということについても疑問が残るところである。

(5) 研修のレベルと枠組み

強度行動障害支援者養成研修は、最初から基礎研修と実践研修を見込んで作られておらず、基礎研修を作る際に様々な要素を盛り込んでしまっていることで、研修全体のレベル設定がアンバランスになっている可能性がある。また、強度行動障害のある人を地域で支えるために必要なスキルを身に付けるための研修として、基礎研修2日間と実践研修2日間だけの研修に必要な内容を入れ込んでしまうことには無理がある。さらに、研修の時にはプログラムに沿って支援手順書を作成することができても、実際に自分の事業所に活用するところに至らないことも多い。それらを踏まえると、更に専門的なスキルを学ぶためのキャリアアップの仕組みや自分たちが作った支援手順書を持ち寄ってお互いに検討するなどのフォローアップの仕組みが必要であり、場合によってはコンサルテーションなどの仕組みも必要である。

E. 結論

厚生労働省のカリキュラムに準じて再検討したプログラムにより強度行動障害支援者養成研修(指導者研修)を実施した。併せて、同研修プ

ログラムに対応する研修テキストを作成した。

以下に、再検討後の指導者研修実施についての評価を中心に、プログラム内容、研修の運営、課題点について整理した。

指導者研修においては、新たに追加した講義「(講義)ひとりで悩まないで～支援者ケアの大切さ～」の評価が高く、行動障害の支援現場において支援者ケアについて学ぶ機会が求められていることが表されていると考えられ、カリキュラム自体に支援者ケアについての項目が組み入れられることが望まれる。また、研修形式としては「グループワーク」形式で理解が深まる傾向にあり、今後のプログラムの改善において参考にすることでより理解が深まる研修を組み立てることができるものと思われる。各都道府県において研修を実施するうえで、今回のプログラムではレベルが高すぎるという認識がほとんどであったため、研修プログラムの内容については、そのレベル設定を再々検討する必要がある。

実際の運営においては、講師やインストラクターの確保についての難しさが課題として挙げられたが、早めの研修日程の設定により講師・インストラクターを確保することや、実行委員や参加者と講師・インストラクターを兼ねるなどの方法が対策として挙げられた。それぞれの都道府県と協議の上で有効な対策を講じる必要がある。また、資料の準備や演習の準備についても大変さが課題として挙げられているが、資料についてはテキストを有効に活用したり、演習などで使うシートを集約、省略するなどして印刷する資料を減らすことで負担を軽減することが必要である。また、演習においては準備を特定の人に集中しないように分担することや、当日の演習がスムーズにいくように講師・インストラクター等で事前に打ち合わせや予行練習をすることが有効であると思われる。

研修の内容としては、研修全体において受講者に学んでもらいたいポイントを明らかにし、その上で各講義・演習を整合性を持ちながら実施すること、アセスメントやABAの基本的な考え方についての講義を取り入れることなどが必要があると思われる。

強度行動障害支援者養成研修が、強度行動障害のある人が地域で暮らすことを実際に支えることができるための内容であるべきこと、制度上、サービス提供の要件や加算の要件であること、サ

ービス管理責任者研修や相談支援従事者研修との関係等を踏まえて、研修の位置づけやレベルを明確にすることが必要であり、それらを通じて、強度行動障害支援者養成研修が強度行動障害のある人の地域生活を実現していくことに十分に効果を発揮することを目指していくべきである。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

(資料 2)

調査票【アンケート調査】

1. 研修の各内容についての満足度と理解度を教えてください。

【基礎研修1日目】

(講義)プロローグ～強度行動障害のある人についての基本的な理解～ 知識習得/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

(演習)私たちが困っていること～感覚の違いを体験しよう～

体験型演習/グループワーク

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

(演習)わかりにくいんです～伝わりにくさを体験しよう～ 体験型演習/グループワーク

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

(講義)私たちのことを知ってほしい～強度行動障害に関係する障害について～ 知識習得/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

(講義)ボクラと世界のつながり方～環境を整えることの大切さ～ 知識習得/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

(演習)やりやすくする～整えられた環境での活動～ 体験型演習/グループワーク

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

基礎研修1日目の総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

【基礎研修2日目】

(演習)知ることから始めよう～根拠を持って支援する～ 記述型演習/個人ワーク・グループワーク

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

(演習)本当の理由を考えよう～氷山モデルで考える～ 記述型演習/個人ワーク・グループワーク

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

(講義)みんなでやろうよ～支援のプロセスとチームプレイの大切さ～ 知識習得/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき()

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

(演習)お互いに共有しよう～記録と情報共有～ 記述型演習/グループワーク

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

(講義)医療と一緒に～福祉と医療の連携～ 知識習得/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

(講義)そのとき、あなたは どうしますか～障害者虐待、身体拘束、行動制限の防止は支援の向上から～ 知識習得/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

(講義)支える仕組み～制度理解のヒント～ 知識習得/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

(講義)支援の現場から～事例紹介～ 事例紹介/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

(講義)ひとりで悩まないで～支援者ケアの大切さ～ 知識習得/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

基礎研修2日目の総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

【実践研修1日目】

(講義)行動障害のある人の暮らしを支えるために 知識習得/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

(演習)適切な支援を組み立てる(予防モデル) 記述型演習/個人ワーク・グループワーク

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

実践研修1日目の総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

【実践研修2日目】

(演習)行動上の課題に対応する(行動障害対応モデル) 記述型演習/個人ワーク・グループワーク

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

(講義)行動障害のある人の生活と支援 事例紹介/スクール

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

(演習)危機対応と虐待防止 記述型演習/グループワーク

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

気づき(

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

)

(講義)家族の想い 事例紹介/スクール

①満足度				
------	--	--	--	--

②理解度				
------	--	--	--	--

大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足
------	------	----	------	------

全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった
---------	----------	----	--------	--------

実践研修2日目の総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

これらを通じて、今回の研修の総合的な満足度と理解度を教えて下さい。

【研修内容】

「知識習得」に対する総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

「事例紹介」に対する総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

「体験型演習」に対する総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

「記述型演習」に対する総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

【研修形式】

「スクール型」に対する総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

「個人ワーク型」に対する総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

「グループワーク型」に対する総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

気づき(

)

【総合】

総合満足度・総合理解度

①満足度				
大変不満	やや不満	普通	まあ満足	大変満足

②理解度				
全く分からない	あまり分からない	普通	まあ分かった	良く分かった

気づき(

)

2. 研修全般について教えてください。

今回の研修で学んだ内容を、実践してみようと思いますか？

全く実践しない | あまり実践しない | まあ実践する | 必ず実践する

今回の研修で学んだ内容を、事業所他メンバーに伝えますか？ ※業務報告以外で

全く伝えない | あまり伝えない | ある程度伝える | 必ず伝える

今回の研修を受けて、事業所全体の「支援の質」はどのようになりますか？

全く変わらない | あまり変わらない | やや良くなる | かなり良くなる

今回の研修で「良かったこと」は何ですか？

今回の研修の「改善点」を教えてください。

今回の研修を一言で言うと「何」ですか？ また何故そうなのかを教えてください。

一言で言うと、

(その理由)

研修に関する下記項目に対する感想をお聞かせ下さい。

研修区分 (基礎研修 ・ 実践研修)

受講者数 人

講師の人数 人 (内部(法人・事業所内)講師 人 外部講師 人 全国ネット講師 人)

ファシリテーターの人数 人

研修内容に関する満足度

大変不満 | やや不満 | 普通 | まあ満足 | 大変満足

【コメント】

研修のレベルについて

高すぎる | やや高い | やや低い | 低すぎる

【コメント】

講師陣の確保について

かなり難しい | やや難しい | やや簡単 | とても簡単

【コメント】

ファシリテーターの確保について

かなり難しい | やや難しい | やや簡単 | とても簡単

【コメント】

資料の準備について

かなり大変 | やや大変 | 簡単 | とても簡単

【コメント】

演習の準備について

かなり大変 | やや大変 | 簡単 | とても簡単

【コメント】

--

その他の準備について

かなり大変	やや大変	簡単	とても簡単
-------	------	----	-------

【コメント】

* * *

当日の運営について

かなり大変	やや大変	簡単	とても簡単
-------	------	----	-------

【コメント】

* * *

後片づけ・事後処理について

かなり大変	やや大変	簡単	とても簡単
-------	------	----	-------

【コメント】

* * *

この研修で強度行動障害のある人への支援が広がると思いますか？

思う	少し思う	あまり思わ ない	思わない
----	------	-------------	------

【コメント】

* * *

この研修で強度行動障害のある人の地域生活が実現すると思いますか？

思う	少し思う	あまり思わ ない	思わない
----	------	-------------	------

【コメント】

* * *

標準プログラム実施状況の評価と
強度行動障害者の生活改善の評価

標準プログラム実施状況の評価と強度行動障害者の生活改善の評価

主任研究者 遠藤 浩¹⁾

分担研修者 五味 洋一²⁾

研究協力者 志賀 利一¹⁾ 相馬 大祐¹⁾ 村岡 美幸¹⁾ 信原 和典¹⁾

1) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

2) 筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターアクセシビリティ部門
障害学生支援室

【研究要旨】 1988 年、行動障害（児）者研究会による全国的な調査により、強度行動障害といわれる一群の存在と支援の必要性が報告された。以後、先駆的な実践と研究結果から強度行動障害者への有効な支援方法が整理され（2007）、こうした研究成果を基に、2013 年以降より都道府県地域生活支援事業内に強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）（実践研修）がメニュー項目に加えられ、2015 年度には全都道府県で強度行動障害への支援者養成研修が開催されている。本研究では、強度行動障害支援者養成研修（以下、研修）で提案している標準的な支援方法（支援の手順書作成、記録等による継続的な支援のモニター等）を活用し、成果をあげている施設・事業所の実践事例、あるいは地域における複数の事業所等の連携事例をサンプル調査し、支援の実施状況、対象となる強度行動障害者の生活状況（その変化）、実施上の課題点等を明らかにすることを目的とする。

結果として、①詳細な訪問・ヒアリング調査を行った 16 事業所では、研修で提案している「強度行動障害への支援の基本方針」が実践され、対象者の明らかな行動障害の軽減がみられ、②健康面の改善、自立度の向上、コミュニケーション能力の向上、余暇スキルの向上、心身面での安定、などの生活上の変化が確認された。ただし③客観的な指標に基づく評価を行っていたのは 1 事業所のみであり、簡易な行動変容の評価スケールの開発の必要性がうかがえた。なお④多くの事業所で、目的と使いやすさが考慮された支援手順書並びに記録が作成され、実践されていた。

A. 研究目的

1988 年の行動障害（児）者研究会による全国の障害者施設¹⁾を対象とした調査により、著しい行動障害を有する者の状態や存在が把握され、そうした一群に対し強度行動障害という概念化がなされた¹⁾。その後、強度行動障害者を対象とした先駆的な実践や研究から、強度行動障害者への有効な支援方法²⁾は概ね固まっている（飯田 2007）²⁾。また、それら先行研究を基に、2013 年度から都道府県地域生活支援事業のメニュー項目となった「強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）」や「強度行動障害支援者養成研修（実践研修）」（2014）のプログラム及び研修テキスト

が作成され、施設系・居住系・訪問系等すべての障害福祉サービス事業所の職員を対象とした研修が、全都道府県で開催され、支援者養成が行われている。

本研究では、強度行動障害支援者養成研修（以下、研修）で提案している標準的な支援方法（支援の手順書作成、記録等による継続的な支援のモニター等）を活用し、成果をあげている施設・事業所の実践事例、あるいは地域における複数の事業所等の連携事例をサンプル調査し、支援の実施状況、対象となる強度行動障害者の生活状況（その変化）、実施上の課題点等を明らかにすることを目的とする。